

昭和42年度畑作用除草剤

試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会

当協会委託の昭和42年度畑作用関係新除草剤の作用および適用性判定試験成績検討会が客年12月11日東京日本都市センターにおいて開催された。

その結果の概要をここに紹介する。

1 供試除草剤の動向

まず今年度供試された畑作用除草剤を作物別にみると第2表のとおりである。

供試薬剤の動向をみるに、薬剤数については昨41年度が69薬剤、今年度が53薬剤（第1表）とやや減少した。一方、別途報告のマルチ栽培（ホーリーシート）を利用した関東東山地域における陸稲用、東北地域における畑水稲用として供試される薬剤の増大が目立ってきている。例えば、後者のマルチ栽培については昭和43年度には11薬剤が供試されることになっている。

2 昭和42年度の試験結果の概要

本年度は北海道を除き全国にわたり近年来まれなる異常かんばつであって、東北地域においては6月中旬～下旬と、7月中旬に異常かんばつに見舞われ、効果にふれがみられた。

次に今年度試験に供試された畑作用除草剤については、さきにも述べたとおり53薬剤であった。これらの中で、除草効果・作物に対する影

響（薬害）などから実用化可能と判定されたものは第3表の如く24薬剤である。また前記53薬剤のうち今年度始めて供試されたものは14薬剤であるが、これらのうち今年度の成績より特に有望として、来年度以降の試験に大きな期待がもちうるのが、MO-500乳剤、SW-6701水和剤、SW-4072乳剤、R-1607粒剤・NP-10水和剤などである。

なお、詳細については当協会発行の昭和42年度夏作関係除草剤作用性・適用性判定試験成績集録、および同要録（印刷手配中）の各畑作編を参照されたい。

<第1表> 畑作用除草剤試験の推移

区 分	供 試 薬 剤 数			
	昭和40年度	41年度	42年度	43年度
畑作物一般	12	12	6	7
陸 稲	12	14	10	9※
春 小 麦	4	4	2	3
とうもろこし	7	4	3	3※※
甘 し よ	4	9	3	4
ばれいしよ	0	1	0	3
さとうきび	2	1	1	0
大 豆	11	10	3	5※※※
小 豆	2	4	3	1
菜 豆	1	1	3	4
落 花 生	6	5	7	3
てんさい	4	4	9	4
そ の 他	1	2	3	2
合 計	66	71	53	48

注) ※ この他、マルチ栽培（ホーリーシート）における陸稲および畑水稲用として11薬剤が供試される。

※※ 同上一トウモロコシ用として他に1薬剤が供試

※※※ 同上一大豆用として他に1薬剤が供試。

< 第 2 表 > 昭和 4 2 年度畑作除草剤供試薬剤成分一覧表

区 分	除 草 剤 名	剤型	有 効 成 分 及 び 成 分 含 有 率	委 託 公 社
1) 畑作一般	T D W - 3 9 (カバック 87)	乳	ベンジル-N, N-ジエチル ジチオカーバメイト 5 0 %	東 亜 農 薬
	T D W - 6 6 4 3 (カバック 48)	乳	ベンジル-N, N-ジイソプロピルジチオカーバメイト 5 0 %	東 亜 農 薬
	C M B U (ブチロン)	水和	N, P-クロルフェニル-N-メチル-N-イソブチニル ウレア 5 0 %	北 興 化 学
	S W - 6 7 0 1	水和	フェノキシピリダジン系化合物 5 0 %	三 共
	H W - 5 7	乳	スルホンアミド系化合物 1 0 %	保 土 谷 化 学
	トリフルラリン (トレファノサイド)	乳	α, α, α -トリフルオロ-2,6-ジニトロ-N, N- ジプロピル-P-トールイジン 4 7.9 %	シ オ ノ ギ
2) 陸 稲	M O - 6 0 0	乳	新ジフェニルエーテル系 2 0 %	三 井 化 学
	M O - 5 0 0	乳	2,4-ジクロル-6-フルオロ-4-ニトロフェニルエーテル 2 5 %	三 井 化 学
	A - 6 5 9 1	水和	ニトロ系化合物 5 0 %	日 本 農 薬
	A - 6 7 5 0	水和	ニトロ系化合物 5 0 %	日 本 農 薬
	M C C (スエップ)	微粒	メチル-N-(3,4-ジクロルフェニル)カーバメイト 2 0 %	S W E P 研 究 会 (日産化学)
	A - 1 8 0 3	微粒 水和	C A T : 0.2 8 %, プロメトリン : 0.7 2 % C A T : 1.4 %, プロメトリン : 3.6 %	日 本 化 薬
	バラコート (グラモキソン)	液	1,1-ジメチル-4,4-ビピリジリウム・ジクロリド 2 4 %	I C I , 日本農薬 武田薬品
	U C - 2 2 4 6 3	粒	3, 4-ジクロルベンジルメチルカーバメイト 5 %	長 瀬 産 業
3) 春 播 麦	H W - 4 0 1 8 7	乳	3, 5-ジメチル-4-ニトロフェニルエーテル 2 5 %	保 土 谷 化 学
	D C N P - M C P	水溶	D C N P : 7 1.4 %, M C P : 1 1.4 %	石 原 産 業
	T O - 2 (セレクト)	水和	チアゾール誘導体 5 0 %	東 洋 高 圧
4) とうもろこし	N P - 8	水和	安息香酸誘導体 3 0 %	日 本 曹 達
	N P - 1 0 (Herban)	水和	3-(ヘキサヒドロ-4, 7-メタノイダニル)-1, 1- ジメチルウレア 7 6 %	日 本 曹 達
	U C - 2 2 4 6 3	粒	前 掲	長 瀬 産 業
5) 甘 藷	A - 1 8 0 3	微粒	前 掲	日 本 化 薬
	H - 6 3 4	水和	3-シクロヘキシル-5, 6-トリメチレンウラシル 8 0 %	丸 和 物 産
	S T I - 1 0 0 (グラサイド)	乳	D C P A : 3 4 %, T W - 1 0 0 (シクロヘキセニルシクロヘキサノン) 1 7 %	ノ ハ ラ 農 薬
6) さとうきび	C M B U (ブチロン)	水和	前 掲	北 興 化 学
7) 大 豆	C N P (M O)	乳	2, 4, 6-トリクロルフェニル-4-ニトロフェニルエーテル 2 0 %	M O 普 及 会 (三井化学)
	A - 1 8 0 3	水和	前 掲	日 本 化 薬
	C M B U (ブチロン)	水和	前 掲	北 興 化 学
8) 小 豆	D C N P (クリノン)	水溶	2, 4-ジクロル-6-ニトロフェニルナトリウム 8 5 %	石 原 産 業
	C M B U (ブチロン)	水和	前 掲	北 興 化 学
	H - 3 3 7	水和	P C P : 7 3 %, リニユロン : 5 %	丸 和 物 産

区 分	除 草 剤 名	剤型	有 効 成 分 及 び 成 分 含 有 率	委 託 公 社
9) 菜 豆	DCNP (クリノン)	水溶	前 掲	石 原 産 業
	CMBU (ブチロン)	水和	前 掲	北 興 化 学
	EPTC (エブタム)	乳	エチル・ジー・N-プロピルチオカーバメイト 72%	東 洋 棉 花
10) 落 花 生	CNP (MO)	乳	前 掲	M O 普 及 会
	A-1808 (キャンパロール)	微粒 水和	前 掲	日 本 化 薬
	CMBU (ブチロン)	水和	前 掲	北 興 化 学
	R-1607 (バーナム)	粒	N-プロピル・ジー・N-プロピルチオカーバメイト 5%	東 洋 棉 花
	UC-22468	粒	前 掲	長 瀬 産 業
	トリフルラリン (トレファノサイド)	粒	前 掲 粒 : 2.5%	シ オ ノ ギ
	CMMP (ダクロン)	水和	(3-クロル-4-メチルフェニル)-2-メチルベンタンアミド 45%	中 外 製 薬
11) て ん 菜	TCAA	水和	トリクロルアセトアミド 50%	へ キ ス ト
	PCA (ピラゾン)	水和	1-フェニル-4-アミノ-5-クロルピリダゾール-6 80%	北 興 化 学
	RO-40 (ロニート)	乳	S-エチルシクロヘキシルチオカーバメイト 72%	東 洋 棉 花
	EPTC (エブタム)	粒 乳	前 掲 粒 : 5% 乳 : 72%	東 洋 棉 花
	NK-3504	乳	ジニトロ系化合物 20%	日 本 化 薬
	H-669	乳	リニュロン : 15%, Cl-IPC : 35%	丸 和 物 産
	SW-4072	乳	— 20%	三 共
	PCA・TCA	—	—	北 興 化 学
12) 亜 麻	DCNP・MCP	水溶	前 掲	石 原 産 業
13) こんにやく	H-326D	水和	リニュロン : 20%, DCMU : 30%	丸 和 物 産
14) 非農耕地 (ハマスゲ)	OK-6511	液	フェノキシ酢酸誘導体 : 21% マレイン酸ヒドラジド : 9%	大 塚 化 学

< 第 3 表 > 昭和 4 2 年度畑作関係実用化判定表

	実 用 化	実 ~ 継	試 験 継 続	継 ?	中 止
1) 畑作物一般			TDW-6643 乳 SW-6701 水和	TDW-39乳 HW-57 乳	
2) 陸 稲	MCC 微粒 A-1803 水和 UC-22463 粒		MO-500 乳 A-6591 水和 A-6750 水和 A-1803 微粒 HW-40187 乳	MO-600 乳	バラコート 液
3) 春 播 麦	DCNP・MCP 水溶	TO-2 水和			
4) とうもろこし		UC-22463 粒	NP-8 水和 NP-10 水和		
5) かんしょ	A-1803 微粒 STI-100 乳		H-634 水和		
6) さとうきび			CMBU 水和		
7) 大 豆	CNP 乳 A-1803 水和	CMBU 水和			
8) 小 豆		DCNP 水溶 H-337 水和	CMBU 水和		
9) 菜 豆		DCNP 水溶	CMBU 水和 EPTC 乳		
10) 落 花 生	A-1803 微粒・水和 UC-22463 粒	CNP 乳 CMBU 水和 トリフルラリン 粒	R-1607 粒	CMMP 水和	
11) て ん 菜		PCA 水和 (直播・移植) RO-40 乳 EPTC 乳 (直播・移植)	TCAA 水和 EPTC 粒 NK-3504 乳 H-669 乳 SW-4072 乳 PCA・TCA		
12) 亜 麻	DCNP・MCP 水溶				
13) こんにやく		H-326D 水和			
14) ハマスゲ			OK-6511 液		

< 第 4 表 > 昭和 4 2 年度畑作実用化除草剤使用基準一覧表

	薬 剤 名	処 理 法	使 用 量 (成分 g/a)	処 理 時 期	適 用 土 壤	適 用 地 帯	使 用 上 の 注 意
1 陸 稻	M C C 20%微粒剤	土壌処理	60~80	播 種 後	火山灰土	全 域	・水和剤に準ずる。 ・土壌が乾燥しているときは使用をさける。
	A - 1 8 0 3 50%水和剤	土壌処理	5~7.5	播 種 後	火山灰土	全 域	・CAT, A-1114に準ずる。
	U C - 2 2 4 6 3 5%粒 剤	土壌処理	30~40	播 種 後	火山灰土	暖地を除く 全 地 域	
2. 落 花 生	CNP (MO-338) 20%乳 剤	土壌処理	20~30	播種直後	火山灰土	全 域	
	A - 1 8 0 3 1%微粒剤	土壌処理	7.5	播 種 後	火山灰土	全 域	・乾燥時の使用はさける。 ・CAT, A-1114に準ずる。
	C M B U 50%水和剤	土壌処理	15	播 種 後	火山灰土 (砂壤土を除く)	暖地を除く 全 地 域	
	トリフル ラリン 2.5%粒 剤	土壌混和 処理	5~6	播 種 前	火山灰土	暖地を除く 全 地 域	・散布むらに注意する。 ・散布後できるだけ早く混和する。
3. とうもろこし	U C - 2 2 4 6 3 5%粒 剤	土壌処理	30~40	播 種 後	火山灰土	東北を除く 全 地 域	・土壌が乾燥しているときは使用をさける。
4. て ん さい	P C A 80%水和剤	土壌処理	48~64	播 種 後	火山灰土	北 海 道 十 勝	・土壌乾燥時には効果がおちやすい。
			32~48 (+展着剤)	活 着 後	火山灰土 沖 積 土	北 海 道 全 道	
	R O - 4 0 72%乳 剤	土壌混和 処理	40~50	播 種 前	火山灰土	北 海 道 (空知を除く)	・散布後速やかに土壌攪拌する。 ・土壌湿度の高いときは、散布をさける。
	E P T C 72%乳 剤	土壌混和 処理	30	播 種 前 移 植 前	火山灰土	北 海 道 (空知を除く)	・散布後速やかに土壌攪拌する。 ・土壌湿度の高いときは、散布をさける。
5. 大 豆	A - 1 8 0 3 50%水和剤	土壌処理	7.5~10	播 種 後	火山灰土	寒地に限る	・イネ科雑草の多いところでは10g/aが適当。
	C M B U 50%水和剤	土壌処理	10~15	播 種 後	火山灰土 (砂壤土を除く)	寒地に限る	
	CNP (MO-338) 20%乳 剤	土壌処理	20~30	播 種 後	全	全 域	
6. 小 豆	D C N P 85%水溶剤	土壌処理	50	播 種 後	火山灰土	北 海 道	・イネ科雑草の多いところでは、効果が低下する。 ・播種直後より処理時期を若干おくらせた方がよい
	H - 8 3 7 78%水溶剤	土壌処理	78	播 種 後	火山灰土	北 海 道 (全 道)	同 上

	薬 剂 名	処 理 法	使 用 量 (成分 g/a)	処理時期	適用土壌	適用地帯	使 甲 上 の 注 意
7. 甘 藷	A - 1 8 0 3 1%微粒剤	土壌処理	7.5 (前後)	植 付 後	火山灰土	全 域	・土壌が乾燥している時は 使用をさける。
	S T I - 1 0 0 5.1%乳 剤	雑草処理		生 育 期	洪積およ び冲積土	温暖地域	
8. 春 播 小 麦	T O - 2 5.0%水和剤	雑草処理	3.0～3.0	生 育 期 (小麦3 ～4葉期)	火山灰土	北 海 道 (全 道)	
	D C N P ・ M C P 82.8%水溶剤	雑草処理	2.0 + 4	発 芽 期	火山灰土	北 海 道 (全 道)	
9. 菜 豆	D C N P 8.5%水溶剤	土壌処理	5.0	播 種 後	火山灰土	北 海 道 (全 道)	・イネ科雑草の多いところ では、効果が低下する。 ・播種直後より処理時期を 若干遅らせた方がよい。
10. 亜 麻	D C N P ・ M C P 82.8%水溶剤	雑草処理	1.8 + 4	草丈5cm 期	冲積火山 灰性土壌	北 海 道 (全 道)	
11. ア ズ キ	H - 3 2 6 D 5.0%水和剤	土壌処理	7.5～1.6	植 付 後	火山灰土	全 域	・出芽後の処理はさける。